

図書館の本だな

～3・4年生 おすすめの本のリスト 2021～

火山はめざめる

はぎわら ふぐ 作 福音館書店 E-ハ

火山は、ほとんどの時間じかにねむっていて、めをさますのはねむりのあいまの、ほんのひとときだけです。ある夏の日、「ドン！」と大きな音がひびきわたりました。火山のまわりにはすむ人びとは、この音がなにか知っていました。火山がめをさまして、むくむくしたかたちの、黒いけむりがたちのぼっていました。

じっぽ

たつみや 章 作 あかね書房 913-タ

大洪水の翌日、太郎は学校の帰り道で、どろどろになっているぬいぐるみのようなものを見つめます。家に持って帰ってあらうと、頭のとっぺんは、毛がなくへこんでいて、カメのせなかみみたいなものがあらわれました。そして、それはもごもご動いて「きゆるるる」といいました。太郎はよく考えて、こいつはカッパらしいと決めます。

がんばれヘンリーくん

ベバリイ・クリアリー 作 松岡 享子 訳 学研プラス 933-ク

ヘンリーは、ペットショップに行くのが大好きで、いちばんすきなのはさかなです。ある金曜日、ヘンリーは熱帯魚のグッピーが安かったので買いました。家に帰っておかあさんに金魚ばちを見せると、おかあさんはグッピーのあかちゃんがいるのに気がつきました。ヘンリーは図書館へ行って、熱帯魚の本をかりて帰ります。

カルペパー一家のおはなし

マリオン・アピントン 文 清水 真砂子 訳 瑞雲舎 933-ア

デビーのお父さんは、大きな紙で人形たちのすむ家と、その家にすむ紙人形の夫婦、四人の男の子と四人の女の子を作りました。お父さんは、この家族の名字はカルペパーにしようといい、デビーもさんせいします。紙の家は、子ども部屋のすみにうつされ、カルペパー家の人びとは、自由にうごきまわることができました。

イワシ大王のゆめ

チョン・ミジン 再話 イ・ジョンギョン 絵 おおたけ きよみ 訳
光村教育図書 Eーイ

むかしむかし、東の海に三千年いきているイワシ大王がいました。ある日、大王は、体が天たかくとびあがったらすぐにおち、雪がふってきたとおもったら、おひさまがてりつけるゆめをみます。なにかただならぬゆめにちがいないとおもった大王は、ゆめうらないがよくあたることでゆうめいな、西の海のはぜをつれてくるよう、家来のヒラメにいつけました。

えほん なぞなぞうた

谷川 俊太郎 文 あべ 弘士 絵 童話屋 Eーア

なぞなぞは、ことばあそびのひとつです。

「かけてもかけても はやくなれない かけてもかけても ゴールにつけない」

さて、このなぞなぞのこたえは？

ネコとなかよくなろうよ

トミー・デ・パオラ 作 福本 友美子 訳 光村教育図書 Eーデ

パトリックは、キララおばさんのところにネコをもらいにきました。おばさんの家には、シヤムネコやマンクスなどいろんなしゅるいのネコがいます。パトリックはおばさんからネコのれきしや、そだてかたをおしえてもらいました。

ぬすまれた宝物

ウィリアム・スタイグ 作 金子 メロン 訳 評論社 933ース

ガチョウのガーウェインは、王室の新しい宝物殿の見張り役主任になりました。宝物殿のかぎをもっているのは、ガーウェインとクマのバジル王だけです。ある日、ガーウェインは、ルビーの山がいつもよりちいさい気がして、大あわてでルビーをかぞえました。そして、何個かなくなっていることを報告しに、王さまのところへ行きました。

口ひげが世界をすくう？！

ザラ・ミヒャエラ・オルロフスキー 作 若松 宣子 訳

岩波書店 943-オ

ヨーヨーのおじいちゃんは、おばあちゃんがいなくなってからひまになりました。ある日、
新聞しんぶんをよんでいたおじいちゃんが、いきなり大声おおごえをあげて家いえをでていきました。かえってきた
おじいちゃんは、ひげ用ようのクリームやブラシやはさみをかってきたのです。ヨーヨーがきくと、
おじいちゃんはひげのチャンピオンになろうおもと思う、といました。

火曜日のごちそうはヒキガエル

ラッセル・E・エリクソン 作 佐藤 涼子 訳 評論社 933-エ

二ひきのひきがえるのきょうだい、ウォートンとモートンは土つちの中なかのいごちのいい家いえに住す
んでいました。ウォートンがトゥーリアおばさんにさとうがしをもっていきたいというと、モ
ートンはびっくりしました。地面じめんの上うえは冬ふゆなのです。すると、ウォートンは雪ゆきの上うえはスキーで
行いけばいいといます。つぎの日ひから三日間みっかかん、ウォートンはスキーづくりにかかりました。